

本との出会い

「友達に『この本すごく感動するよ』と勧められて」という友達経由型。「本屋（図書館）さんで題名（表紙）を見て」という視覚直感型。「国語の授業で本のポップを書いて。国語の教科書に出ていた物語。教科書のおすすめ本だった。」という国語授業経由型（国語の先生は嬉しいですね！！）。「両親にすすめられて。姉（妹）が持っている本を借りて。お母さんに無理やり読めと言われて。」という家族型。

今年も「六ヶ所村子ども読書感想文コンクール」が行われ、小学校265作品、中学校56作品の応募がありました。第一次審査の審査員である私は、5名の審査員と共に、子ども達の学校名と名前が隠された原稿用紙一つひとつに目を通しました。

今年も力作が多く、個人的には中学生の作品は昨年度のものよりレベルが数段高くなったと感じました。若い世代の読書離れが進んでいると言われてはいますが、今回の作品を見る限りは、六ヶ所村はまだ大丈夫かな？とも思いました。

私が読みながら注目したのは、たいていどの感想文にも書いてある「なぜこの本を選んだのか」です。冒頭の友達の勧め、題名、表紙の印象、国語の授業がらみ、シリーズや家にあった、親から無理やり・・・などなど。

今どき！と思ったのは「好きな歌の歌詞が小説になっていて、もとになっている小説を読んでみよう・・・」「YouTube でおすすめ本を探していたら・・・」「『推し』のおすすめサイトにあったので」「SNS で小説が原作の映画が話題になっていたので」「好きな声優さんが出ているアニメの小説だったので」「好きなバンドのボーカルが著者だったので」と歌やネット、SNS が興味のきっかけとなり、好きな本に出会おうと様々な手段を駆使している子ども達の姿が目につかび、とても微笑ましく感じました。

本は自分の好きなものを好きな時間に好きな場所で好きな量だけ読むのが一番楽しい。そして、本との出会いで自分が救われたり助けられたり、勇気づけられたり、夢や目標を見つけたり・・・。「これからのみなさんの人生に、素敵な本との出会いがありますように！」大好きな本を片手に私も、秋の夜長を楽しもうと思います。